

同窓会報

No.71

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

四日市市茂福65
TEL <059> 365-3631

印刷

（株）東海フォトデザインシステム



一般財団法人「四高会」について

同窓会長 熊澤誠一郎

（四高29年度卒）

我が母校四日市高校は本年は創立以来115年を迎えております。明治32年創立、「質実剛健」の立校の精神のもと115年の間に4万7千人を超える卒業生を輩出し、各界でその実績を残した活躍されていることは誠にうれしく心強いことでもあります。これからも歴史と伝統を誇る母校に自信と誇りを持って各分野で羽ばたいて行つて頂きたいと思ひます。また、このような節目、節目で先輩諸兄のご苦勞に敬意を表し、振り返つて見ることは大切なことだと思ひます。

現役在校生の諸君も「文武両道」をモットーとし勉学にスポーツにと素晴らしい成績を刻み県内ナンバーワンの充実した内容を誇っているようで同窓会としても誠に喜ばしくうれしいことであります。

さて、みなさんは「四高会」なるものをご存知ですか？ ご存知でない方々も多いのではないかと思います。

これは我が同窓会先輩幹部諸兄が建設された同窓会館を運営すべく組織された財団法人の名称です。

この同窓会館は、本校70周年

記念事業として、昭和43年11月27日着工、44年竣工し5月18日落成披露が行われました。その規約には、「四日市高等学校同窓会相互の親睦をはかると共に同窓会館の維持をはかり地域社会の文化教育の発展に寄与することを目的とする」と制定し、その目的を達成するため各種研究会、講演会、講習会等を開催することを事業内容としております。その中でもしるいのは、結婚相談所開設を事業のひとつに挙げていることです。この会館を利用して同窓生の良きご縁を育もうとして事業内容に挙げているのは、先輩の良きはからいであり誠にほほえましいことです。

そもそも現行の公益法人制度は、1896年の民法制定時にできて以来、100年以上一度も抜本改革されずにきました。以来、公益法人は、志のある人の集まり（社団法人）として、あるいは財産の集まり（財団法人）として民間の公益活動の担い手たるべく大きな役割を果たしてきました。

新公益法人制度は、これら時代に合わなくなつた制度の問題点を解決し社会が求める多様な

公益活動を自発的に行えるよう再構築し平成20年12月施行されました。その上に立つて20年、25年11月まで移行期間がもうけられ、移行申請を行い、認められれば新しい公益財団として存続が可能となりました。

そこで我が「四高会」も諸先輩の同窓会館に対する思いを重く受けとめ、県ご当局の指導を受けて存続すべく努力してまいりました。その結果、同窓会の担当役員諸氏のご尽力ご努力によりご当局のご了承を得て、昨年11月20日をもって新しい制度への移行が認められ、本年4月1日新しくスタートすることになりました。

形は変わりませんが新しい制度の精神に基づき無理をすることなく自然な形で、新しく開かれた、地域社会の文化、教育の発展に寄与する同窓会館（四高会）として存続していきたいと思つております。

ここに新しい「四高会」の存続について同窓会諸兄のご理解をいただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



現役も同窓生も 素晴らしい四高

学校長 水谷明弘

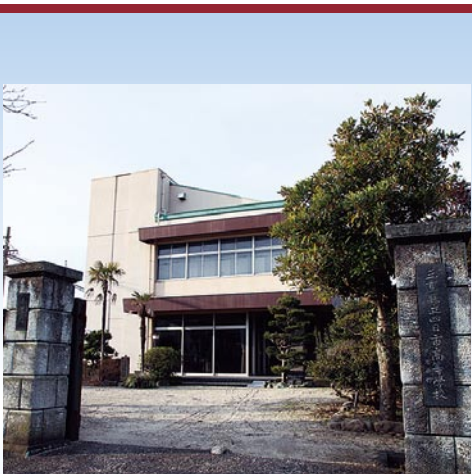
皆様ご存じのとおり、今年度の教育課題は、全国的には「いじめ」と「体罰」問題でした。また三重県では小中学校生の学力が複数年低くランキングされ、「学力向上」が喫緊の教育課題となっています。皮肉なことに小中学校で学力が高いと言われている、青森、岩手、富山、県等東北、北陸地方の多くの高校が週刊誌の進学ランキングや学習雑誌を見て、本校へ先進校視察に来ています。ただし、信頼性、妥当性のある学力ランキングではありませんから、おごりは禁物です。たかがランキングされどランキングという言葉がびつたり当てはまります。

また昨年10月には、「週刊エコノミスト」の記者から「全国名門高校」の取材を受けました。この評価は同窓生の皆様が高く評価されたものです。三重県で一番最初に選ばれましたが、現役もOBも高く評価されることは名誉あることですし、嬉しい限りです（2月3日号に掲載されています。バックナンバーも買えます）。

さて、少子化が恒常化し、我が国の経済力維持のためには、徹底したグローバル化は避けられません。そんな時代に必要なたしとして、「語学力（国際語としての英語）」、「幅広い教養」、「課題発見力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」等が挙げられています。私は生徒にこの時代に生まれた者の「使命」と日々言っています。

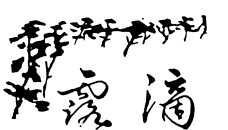
よく考えれば真のリーダーになるためには、必要なことばかりです。私たち教職員も生徒と一緒に力をつけ、「現役」、「同窓生（OB）」、「教職員」の三者が高い評価を受け続けたいと思つています。

最後に、同窓生の皆様におかれましては、母校に対して引き続き温かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。



三重県立四日市高等学校同窓会
公式ホームページ

<http://www.pcs.ne.jp/~shiko/>



偽装、疑装で2013年が終わり、希望を抱いた2014年も偽装・疑装のニュースでガッカリ。戦後70年が過ぎようとしていく。戦中、戦後、衣食住の枯渇した時代を思えば、現世は何と表現したらよいのか。衣・食・住すべて満たされ溢れているから真偽の判断を的確に判断できる人間でありたい。▼偽装する人間も悪いが真偽の判断の出来ない人間もいかに悪いのか。昔から「安物買いの銭失い」と厳しく言われた。真偽を見分ける落ち着いた思考能力を持たねば偽装には勝てない。美しく装飾された表面のみに惑わされ中身を見極めない人が余りにも多すぎるようだ。▼「オ・モ・テ・ナ・シ」の言葉が流行語になるご時勢。表（オモテ）なしの中身で勝負。つくられた表面の美しさでなく、中身の美しさをみせる日本人でありたい。何事にも余りにも裏表のあり過ぎる時代だ。表・裏の間の隙間も問題だ。隙間産業の全盛期。わが国の盲点だ。「オ・モ・テ・ナ・シ」とは表も裏もない真心のみである。真心のみの美しい日本人でありたい。▼真心をもたないロボット人間が急速に創り出されている。ITを積み込んだ心のない知識人間。真の人間は知識を詰め込む動物ではない。智慧を生み出す動物である。人間は有史以来、生存してきた過程での経験・体験により智慧を積み重ねて現在に至っている。IT機器の進歩で知識詰め込みはロボット人間に任せよう。▼学校教育は知識詰め込み教育をやめ、経験・体験による智慧の創出できる真心を持った人間をつくり出す場になることを期待したい。

（鈴木田）



富中・四女・北女卒



四高昭和25～29年度卒



四高昭和30～38年度卒



四高昭和39年度以降卒



受付風景



記念講演



総会議事審議

平成25年度 四日市高校同窓会総会報告

記念講演 樋口清司氏（四高39年度卒）

「宇宙アラカルト」

平成25年6月1日
四日市市総合会館
8階 視聴覚室

議 事

総会で審議された議案は次の通りです。

○第1号議案

平成24年度事業報告

○第2号議案

平成24年度収支決算

監査報告

○第3号議案

平成25年度事業計画案

○第4号議案

平成25年度予算案

熊澤会長の、我々は卒業生4万7千人のうちの一人であるという自覚と共に、114年の歴史と伝統を次の世代に繋ごうというご挨拶とともに始まった平成25年度総会は、6月1日（土）、四日市市総合会館で、出席者74名で開催されました。

次に水谷校長から、同窓会からの支援に対するお礼の言葉と、将来を担う母校学生たちの活躍を期待して温かく見守って欲しい旨のお言葉を頂戴しました。

その後議事の審議、JAXA副理事長でいらつしやる樋口清司氏（四高39年度卒）の「宇宙アラカルト」と題した記念講演、抽選会、ティー・パーティーと、つつがなく会は進行了しました。

記念講演

今年度は壮大な宇宙のお話でした。

天気予報もGPSもスカパーも、私たちが宇宙と繋がっていることを再認識する物であること、我が国は世界からも評価されるレベルの開発力をもっていること、特に国際宇宙ステーション（ISS）の「きぼう」日本実験棟ではステーション内で様々な実験が行われ、その技術が高い評価を受けていること、その技術の根底に日本の文化が生きていること等をお話いただき、はるか宇宙が身近に感じられるような一時を過ごさせていただきました。

財団法人四高会 平成24年度 収支決算書

（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

〔収入の部〕					単位：円	
勘定科目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額		
寄付金収入		同窓会より	1,200,000	1,200,000		
雑 収 入		会館使用料	40,000	100,000		
		受取利息など	2,497	3,982		
前期繰越金			306,018	306,018		
合 計			1,548,515	1,610,000		

〔支出の部〕					単位：円	
勘定科目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額		
管 理 費			1,153,859	1,230,000		
	事 務 費		45,705	150,000		
	会館修理費		563,220	500,000		
	清 掃 費	環境整備等	111,600	150,000		
	保 険 費	火災保険料	23,510	30,000		
	光熱給水費	電気、水道、ガス代	409,824	400,000		
事 業 費		会議、講演	209,909	240,000		
法人住民税		県税・市税	70,000	70,000		
予 備 費			0	70,000		
合 計			1,433,768	1,610,000		

（次期繰越金）百五銀行富田駅前支店普通預金 114,747円 単位：円

24年度収入	1,548,515
24年度支出	1,433,768
差引残高	114,747

四日市高校同窓会 平成24年度 収支決算書

（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

〔収入の部〕					単位：円	
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額		
同 窓 会 収 入			8,408,200	8,444,000		
	入 会 金	全日制 1,800円×1,074人	1,933,200	1,944,000		
	同 窓 会 費	終身 (20000) 311 6,220,000				
		10年 (10000) 2 20,000				
		5年 (5000) 3 15,000				
		3年 (3000) 1 3,000				
		2年 (2000) 2 4,000				
		1年 (1000) 213 213,000	6,475,000	6,500,000		
雑 収 入		利子、その他	37,252	13,504		
繰 越 金			2,202,946	2,202,946		
合 計			10,648,398	10,660,000		

〔支出の部〕					単位：円	
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額		
運 営 費			2,231,044	2,150,000		
	給 与	給料	1,174,000	1,200,000		
	事 務 通	印刷、事務用品等	175,515	100,000		
		電話、郵便、インターネット関連費など	881,529	850,000		
会 議 費			253,714	370,000		
	総 理 事 会	会場費、懇親会費、案内状	155,118	250,000		
	常 任 理 事 会	会場費、会議費、案内状	79,063	100,000		
		会議費	19,533	20,000		
事 業 費			1,343,433	1,400,000		
	報 告 文 書	会報印刷及び発送費	843,433	900,000		
	報 告 文 書	母校クラブへ	500,000	500,000		
四 高 会 拠 出 金		(財)四高会寄付金	1,200,000	1,200,000		
積 立 金			5,000,000	5,000,000		
予 備 費		供花等	22,260	540,000		
合 計			10,050,451	10,660,000		

百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円

平成24年度収入	10,648,398
平成24年度支出	10,050,451
次年度繰越金	597,947

特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円

前 年 度 末	33,565,964
今年度積立金	5,000,000
利 子	6,697
今 年 度 末	38,572,661

「財」四高会を「一般財団法人」への移行手続顛末記

(財)四高会副理事長 西 脇 壽 郎
(四高32年度卒)

公益法人制度は、明治29年の民法制定とともに始まった(民法34条)。ところが近年になり、実態のないもの、休眠中の法人を裏の世界で売買し、税務等での恩恵を受けようとする事例の増加を受け、平成16年12月、公益法人制度改革の基本的枠組みを閣議決定。18年6月2日関連三法を公布。20年12月1日新制度が施行されました。

その内容は、平成20年12月より5年間の移行期間の終了までに、移行申請を行わなかった場合、又は移行終了までに移行申請を行ったが、移行期間終了後に認定または認可が得られなかった場合は、解散を命ぜられ、資産は国または県に没収されるというものです。

当「四高会」は昭和44年、母校創立70周年を記念し、同窓生よりの浄財にて土地を購入し、会館を建築しましたが、その際土地・建物の保全のため財団法人を設立し、今日に至っています。

そこで熊澤理事長は移行に関する調査・手続きの推進役に私を指名されました。私はその後県の説明会に出席したりして、その概要の把握に努め、22年の理事会にて、四高会是一般財団法人として認可を得るのが相応しとの結論に達しました。その後申請作業の実務を進めて下さる方を、四高42年度卒の司法書士、富田常豊さんをお願いし、



高橋睦夫氏
(四高27年度卒)

永年にわたり、同窓会副会長として会の運営のためにご尽力くださいました、四高27年度卒業の高橋睦夫氏が平成24年4月3日ご逝去されました(享年78歳)。

母校創立100周年記念祝賀会における、母校・同窓会の発展を祝しての「万歳三唱」の音頭をとっていただいたお元気なお姿は、残してくださいました。

「ありがとう」ございました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

合掌

〈平成26年度総会のご案内〉

平成26年度総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様におかれましては、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

○日 時

平成26年6月7日(土)
13時30分受付/14時00分開会

○場 所

四日市市総合会館8階 視聴覚室

○記念講演(総会後)

〈講師〉

北川 尚氏 (四高61年度卒)

〈演題〉

「リニア中央新幹線計画について」

終了後 ・抽選会のあと記念撮影
・喫茶室にてティー・パーティー(無料)

○付 記

- ・会費期限切れの方には、振込用紙を同封いたしました。会費納入にご協力下さい。
- ・講演につきましては、一般に公開しております。お知り合いで、ご興味のあります方には、ご案内下さい。

○問合せ

四日市高校同窓会館
TEL・FAX 059-365-3631
Eメールアドレス sikoukai@m2.cty-net.ne.jp

平成25年度会費納入者

(敬称略)

○終身会費(2万円)

石沢ちより、伊藤亜里紗、宇佐美瑞紀、近江達也、岡友香理、尾崎侑平、加藤里奈、鎌田和、岸本雄斗、北川夢香、久世隼也、黒田みゆ、小久保和真、後藤ゆう、白川凌雅、杉村優佳、田中雄人、塚本優生、中村美沙、西野美風、橋本樹里亜、長谷川雄平、平井裕也、福田みのり、藤本拓真、松永和夏、三島広大、水谷健助、八嶋恵太、矢野杏奈、山田葉月、山本明歩、吉川美都里、吉田早耶香、安藤真央、飯田和真、伊藤奈々、太田泰彰、大原郁恵、岡本明浩、片岡卓也、川口怜佑、河島佳史、川村環奈、窪田有真、黒田百々子、後藤健太、小林優太、齋木彩、坂井万紀、坂上紋香、世古彩、高山涼深、田中優衣、田中里奈、樋谷杏里、東條里紗、西川由美香、西脇彩夏、西脇千智、林滯、藤見翔太、益田一貴、馬瀬里佳子、松永千明、水谷沙里、水谷菜津希、水本正太郎、村上七海、安田千尋、山岸哲也、山口藍香、

山中彩加、浅野優子、伊藤光紀、内田汐美、小栗衣里加、小野崎菜奈、垣本彩花、加藤まい、楠井愛美、倉まなみ、越山諒大、小林恵、小宮崇嘉、下里いずみ、下地真央、下田暁子、白川遥、田尻文弥、田中和、土屋結愛、出口真帆、中川絵里加、中村友里恵、中屋匡太、橋本皓司、服部雄斗、日沖円香、東恩納美沙、福岡亜耶、升家あずさ、三木浩江、水谷美穂、水谷優里、森一代、山川愛加、吉田翠葉、渡部佳月、青島慎一郎、有竹克馬、植梨花子、植田啓介、大西滯、小野真里紗、小野寺智子、加藤大博、楠侑真、後藤宏輔、小林楓、小林恒人、櫻井彩樹野、佐々木桃子、清水育実、清水弘太郎、鈴木朝咲子、瀬古春奈、寺本絵美奈、檜尾夏海、廣田成美、藤波さやか、松井滉太郎、松永摩耶、光本麻佑子、宮田淳史、渡部沙南、網元裕一、井坂夏海、梅村昌宏、江間汐里、荻須健太郎、加藤巧也、加藤史健、川添航、木村幸平、小菅大智、小林奈生、小林里沙、笹川裕貴、清水那雄、鈴木蘭丸、中上雄太、中川摩耶、長屋文見、苗村友紀、橋本康志、原史拓、坂一真、東川佳司、福井優太、星野泰成、堀川晃希、本田恵里奈、松永千裕、宮崎翔太、森友哉、諸岡想、安河内章太郎、柳田玲奈、矢野涼介、山本啓太、渡邊友里、青木亮介、井後舞乃、石垣元務、市川航平、伊藤愛里、伊藤栄俊、井村洸介、鶴野裕基、大橋健吾、小倉一真、小田豪将、加藤智香、川瀬陽司、北川琢磨、木元雄一、栗原佳成、黒田拓実、坂崎由衣、清水陽介、園玲華、内藤貴史、中嶋柁弥、長野兄裕、中村昂樹、成田智世、橋川怜奈、服部優里、濱崎拓也、林奏海、藤居真優、藤見冴梨、古島夏子、堀貴登、松永悠、松葉玲佳、水谷麻由、

水谷泰大、水本麻結、三井貴世良、山本裕和、渡部優希、浅田真敬、池田樹之介、市川元氣、伊藤正之、犬飼紘子、今川雄大、岡田翔陽、垣内洸太、加藤留意、門脇美優、金森健人、川崎彩穂里、草川洋、熊澤文、黒田亜樹、小林勇貴、近藤寿洋、坂本隼也、杉本昌太、瀬上裕斗、関口達才、津田菜子、寺倉丈人、中庭綾華、中山椋介、西口真莉香、西田郁美、野口尚紀、長谷川千夏、平野裕斗、松浦祐也、松尾朱莉、水谷晴香、宮崎一輝、矢田理紗、山本恭司、山本俊孝、横山尊一、吉田真結子、若林寧々、赤尾柁哉、伊藤綾香、伊藤大介、伊藤尚人、岩井彩音、大塚真利奈、大平紗矢香、奥岡笑美、柏木大和、金川弦暉、喜多村泰尚、小林洋平、鄭波、内藤祐輔、西口美穂、服部伊久美、東口真由香、東田里穂、藤澤亜衣、水谷明洋、諸岡泰良、山本彩加、渡邊唯仁、石井貴大、石黒弘、石崎琢也、伊藤志穂、伊藤修子、伊藤夏咲、今村亮太、上野祐希、大川由季、垣内大輝、加藤桜子、金森慶祐、金森翔平、小林真悠、近藤智月、佐々木美雪、佐藤あかね、鈴木愛由子、鈴木都月、左言宇、高尾翠、辻尚道、堤崇裕、中川永輔、西川某里、丹羽陽介、丹羽亮太、長谷川竜生、濱口直大、廣畑智紀、向井莉紗、森彩美、森拓哉、森下優、柳川春樹、山口野亜、古澤英聖、中村公一、池田紀子、浅野正代、児玉圭祐、田中博、小保方よしの、樋口清司

(平成25年12月現在)

○10年会費(1万円) 2名

○5年会費(5千円) 3名

○2年会費(2千円) 4名

○1年会費(千円) 195名

会員の皆様、誠にありがとうございました。



老いて知る 「Y兄への手紙」

田中 増治郎
(富中38回卒)

「前号旧師を憶う兄の玉稿で
当時が蘇り有難うございまし
た。『母校がなぜ富中なのか』
小生の一筆お救し下さい。」

本校が第二中学校として鳥出
神社で開校したのは明治32年、
前世紀の直前でした。大正8年
県立富田中学校と改めたのはご
存じの通り、でも旧桑名藩領で
間の宿富田村への立地がふしぎ
でした。桑名四日市の申立は却
けられ漁村や遊里という負の条
件のままで富田になったと伺っ
ていましたが、本校舎が東海道
から離れた田の中とは…。黒松
先生の赴任時の嘆き節が聞こえ

ます。当初の県案では既に「大
矢知村若くは其附近」とありま
す。大矢知は、忍藩陣屋と学制
に先んじた大賀賢助が学頭の興
譲堂のあった村です。教育環境
の適地として擬せられ、校地を
「其附近」富田の西寄りにした
力学の背景が浮かびます。
賢助（旭川）は朝明郡東大鐘
村のお寺の住職で、貴兄ご案内
の広瀬淡窓の咸宜園に学んだ幕
末明治期の漢学者です。「鋭き
も鈍きもともに捨て難し錐と槌
とに使ひ分けなば」は淡窓の歌。
彼は『万善簿』にその日の善と
悪を書きとめていました。

前号校長先生の「四高生の一
日一善」には個性と品性を磨く
淡窓を今に見た思いです。
富中たり得たのは、興譲堂、
地主渡辺氏と当局の英断。私達
もどうやら淡窓や賢助の道を歩
いてきたようです。道といえ
富田は昭和4年の開業です。以
上堅い話で恐縮です。老の史話
遊び余はお目みえの折。頓首



私達の青春

出口 壽子
(四女45回卒)

毎年毎年一つの通過点に過ぎ
ないけれどやっぱり新年を迎え
られた事は幸せです。

四日市高女の45回生は昭和5
年6年生まれです。百貨店の食
堂に初めてお子様ランチが登場
した年だそうです。

そんな平和な幸せな子供時代
がやがて憧れの女学校に進学し
た時日本中が大変な時代になっ
て行きました。戦争に始まり戦
中戦後の想像以上のきびしい生
活を強いられました。学問を捨て
て学徒動員と言う事で織物工
場、軍需工場へと出向きました。

与えられた仕事を真面目に頑張
り時には女学生には力仕事の大
変さに涙したことが何度もあり
ました。もはや戦後とは言えま
せんが5年間女学生生活で楽し
い事も沢山ありました。が、やは
り思い出と言え、戦時中の辛
い切ない事が一番強烈に残って
います。
昭和、平成と元気に皆さんと
一緒に生活できる事は、何かの
ご褒美でしょうか。苦勞を同じ
くしたお友達もその当時の事を
忘れてはいませんが、決して誰
もうらまず、むしろ懐かしくさ

え覚え笑いかえております。
すべて感謝しながら日々をすご
しております。

最後に老年の私達をお願いし
たい事は、争いは、決してせず、
相手の身になって仲よく一生を
送って生きたいと思えます。



思い出の道

加藤 小夜子
(四高26年度卒)



終戦が6年生だった。大矢知
興譲小学校の校舎は戦火にて焼
け講堂のみが残った。各学年毎
に見通しをさえぎるための大き
な衝立にてしきり勉強をした
日々だった。翌年北女学校へ入
学、3年生の6月に63制執行さ
れ大矢知中学へ、その年の9月
三ヶ村合併で朝明中学へと学校
再配により移動にて辛い思いを
しました。女学校で受けた授業
を再び中学校で受け進学した次
第です。

口ずさみ、お話しをし、又つみ
草をし微笑み乍ら通学した道。
今や思い出の道はあさけプラザ
が建ち各店舗がところ狭しと並
んで田舎道も随分とかわり時代
の変遷と思ひ在りし日を車窓よ
り思い浮かべ…。春には蓮華畑、
道にはタンポポの花、秋にはす
すき、曼珠沙華等、又秋の七草
を探し又黄金の稲穂がすばらし
い田園風景だった。

昭和25年から27年大矢知から
四高迄の車の往来は少なく徒歩
にて20分の通学距離で3年間皆
出席であたり一面田畑で民家が
ばらばらと建っている道を歌を

早や傘寿を迎え思い出は色々
とあるが私の青春は高校時代が
人生で一番楽しい3年間だっ
た。小学校中学校と修学旅行は
なく初めての旅行で胸をおどら
せ四日市駅より国鉄にのり東京
箱根江の島行き、そのコースに



て四高二七会50年記念として旅
をしました。たくさんさんの参加に
て高校時代にかえり楽しい旅で
した。毎年1回四高二七会に参
加させて頂き傘寿の年で閉会の
声が出ていましたが、まだまだ
二七会を継続との要望があり又
年に1回開催される事に決定し
続けてくださる幹事さんに感謝
致し、その日を楽しみに頑張り
度く思う現在です。

年に2回の同窓会

佐久間 裕之
(四高31年度卒)



私達四高三一会は総勢498
名が同窓生である。卒後57年、
今やその大半が後期高齢者の仲
間入りを果たしたが、毎年2回
（1月と8月）に同窓会を開催
している。昔は3年に1回だっ
たが、平成2年からずっと年2
回になり、24年間も続けてきた。
昨年末迄に70名余が故人となっ
た。半年に1回の同窓会には今
でも50名程が参加する。毎回来
しい数時間を過ごして、皆満足

して帰ってゆく。近くに住む者
だけでなく、遠く他県からもや
つて来る。同級生の中には、小
中高と一緒だった友人を多く持
つ者も沢山居て、60年来のつき
あいを続けている。考えたら家
族以上の存在だ。

気心が知れた友達は最高のも
のである。何十年経っても、肩
をたたき合って語り合える。
色々な仲間が居てオモシロイ。
四日市の市長を3期も努めた

男、助産婦一筋で勲章をもらっ
た女性、有名大学の学長やら、
なかなかである。男と女が半々
で、このバランスも面白い。

私自身も高校3年間は楽しか
った。陸上競技の1000米で三
重県で記録も作った。生徒会長
も努めた。母校が甲子園の夏に
全国優勝したときは、応援団の
一員でアルプスで感涙に噎んだ。
悔いがない3年間をなつかしく思
う。

我々三一会は世話好きな幹事
に支えられ、これからも年に2
回のペースを続けてゆくことだ
ろう。同級生バンザイ!! これ
からも元気で頑張ろう。



四高in富田

辻 康之

（四高51年度卒）

平成25年4月より、母校で36年ぶりにお世話になることになりました。どうかよろしくご指導お願い申し上げます。

私は富田近郊に居住していることもあり、変容する四高界隈の景観の中で幼少期より人生の約半期を過ごしてきたことになりました。その間、学舎や校庭は瀟洒に、また駅西口はロータリーも整備され機能的で美しくなっただと感じています。四高生当時でも富田駅周辺に高層マンションは皆無でした。富田小学校の児童の頃は、十四川の表小段には草花が咲き誇り蛸をはじめ昆虫が、川底の清流には魚や亀

人物



旅

毛塚 正子

（通信制課程）

無我夢中で勉強し3年間で卒業したのは、もう15年前になります。卒業という夢を達成でき、感無量でした。また、その頃小学生だった娘も社会人になり、時の流れを感じています。

卒業してからは、職業訓練校、通信制の短期大学へ進学し、新たな夢へと歩み始めました。勉強や子育ても一段落し、仕事も安定してきたころ、ふと旅に出ようと思いました。主人の運転で家族と青森へ行きました。片道1200キロ弱あり、大変遠い道のりでしたが、到着した時は感激しました。次も主人の運転で鹿児島県指宿へ行きました。片道1000キロ強もあり、

これもまた遠く長い道のりでした。国内はほとんど旅行したもので、今度は海外へも目を向けようと思いました。ハワイと韓国はすでに行ったことがあったため、一年前から、台湾、中国（北京）、オーストラリアへと旅してきました。

台湾では、レトロな味わいのある町を散策したり、故宮博物院で台湾の歴史にもふれたりしました。

中国では、念願の「万里の長城」へ行き、険しい道のりでしたが、達成感がありました。しかし、北京は大気汚染がひどく、毎日空が灰色だったため、太陽

を見ることはありませんでした。この旅で経験したことは、現在勤めている会社の中国人研究生たちと仕事をする上で活かされています。

一番行きたかったオーストラリアでは、ケアンズに滞在したので、亜熱帯雨林の自然の美しさに感動し、カンガルーやコアラの可愛さに心なみえました。

今後も色々な国へ旅をして、現地の人や文化にふれ合いたいと思っています。



?年後の息子へ

山下 詞子

（四高平成9年度卒）

平成25年12月30日早朝、予定日より10日余り早くあなたは産まれました。「おなかの中の居心地が良いと赤ちゃんはなかなか出てきてくれない」と俗に言われるようですが、私のおなかの居心地悪かった？ あなたはおなかの中にいる時から、たくさんの方々に支えられていました。あなたが元気に産まれてくるようにと、にぎやかに話しかけてくれたり、そうそう、あな

たのために心を込めた吹奏楽の演奏を聴かせてくれた方々もいました。そんなあなたにかい思いは、きつとおなかの中のあなたにも伝わっていたでしょう。

あなたがこの世にデビューして今日で20日。日に日に変わるあなたを見ながら、「これからどんな人生を歩んでいくのかなあ」と楽しみに思っています。あなたにつけた「岳久（がく）」という名前には、深い意味は

ありません。ただ私たち夫婦が山好きだから。特別に偉い人にならなくてもいい。頂上を目指す登山のように、時には立ち止まり景色を楽しみながら、またつらい時には、仲間同士励まし合いながら、ゆっくりでもいい、一步一步踏みしめて頂上という目標に向かって進んでいける人になってほしいな。

まあ、難しいことを言う前に、まずは一緒に山に登ろう。自分の足で進んだ者にしか味わうことのできない景色と一緒に見よう。そんな日が来ることを楽しみに、新米母ちゃんもあなたに負けないように日々頑張るよ。だからあなたも早く、早く大きくなあれ。



四高Ⅱ青春ど真ん中

吉田 茂生

（四高平成16年度卒）

今回この様な機会を頂き、卒業生として大変嬉しく感じております。

2004年に四日市高校を卒業後、大学・大学院は神戸へ、そして現在は東京で働いており、改めて振り返ってみると四高を卒業して四日市を離れてからもう10年も経つことにしみじみしております。今年の正月も実家に帰省しましたが、三岐鉄

道の時刻表がデジタルに変わっても、駅前のロータリーが新しくなっても、近鉄富田に到着して四日市高校を見ると青春の日々を思い出します。

1回目の授業で私には向いていないと悟った世界史。文武両道を体現出来た、ハンドボール部。高校2年生の夏休みに四高生総勢40人で行ったサンディエゴへの短期語学留学。高校3年

生の夏に受験勉強そっちのけで和太鼓の練習に取り組んだ四高祭。将来何をしたいのか、そもそも何の為に勉強しなければならないのか良く分からず投げ出しそうになった時もありましたが、個性溢れる素敵なみんなと共に楽しいことも辛いことも分かち合って高校3年間を四日市高校で過ごせたからこそ、今の私があるのだと実感しております。

今後どのような人生が待っているかわかりませんが、どこで何をしたいようと、我が故郷である四日市を忘れること無く邁進して参ります。

リレー随想

〈第17回〉

告白

映画監督 瀬木直貴

（本名：直樹 四高57年度卒）



あゝ、僕は姑息な生徒でありました。

母校出身の立派な先輩方とは違い、同窓会報に寄稿する機会を賜っても、胸を張って語れる思い出がない。むしろ、懺悔のような気持ちである。在校中の僕は正々堂々としたところがなく、もしくは、正々堂々のふりをした小心者だった。

マラソン大会のあの日、僕は風邪と偽って学校をサボタージュした。また、別の日には、家族に通学したと思わせて、一方で学校には欠席の連絡をして、電車に乗って奈良まで遊びに出かけたこともあった。友人のノートをまる写しして、あたかも自分の意見であるかのように発表した。嘘がばれやしないかと、その後数日はドキドキして過ごしたものだ。

無理やり記憶を辿ると、テスト勉強をがんばって好成績を残したり、文化祭を盛り上げたり、好意を寄せた女の子とボウリングに行ったり、人並みの青春の思い出はあるものの、不思議なことに、今も思い出すのは後ろめたいことばかりだ。

11年前、僕は四日市で「いずれの森か青き海」という映画を撮った。決して素敵な思い出があったわけではない故郷の、それでも消し去ることのできない故郷への、中途半端な思慕を、主人公の女子高校生に託して描いた個人的な作品だった。

製作準備の過程で、自ずと母校の演劇部に出演の打診をした。生徒たちの意欲が感じられ、一定程度の手ごたえはあった。ところが、後日、母校から出演辞退の電話が入ったのだ。「当校生徒は受験勉強等で忙しいため」という理由だった。僕は自分の思慮の足りなさを恥じるとともに、姑息に過ごした高校時代のツケがここに來たのだと自己嫌悪に陥った。

だが、撮影が始まると、嬉しい驚きが連続して起きた。



撮影中に偶然通りがかった恩師が、「おう、瀬木、こんなところで何やっとなのや」と話しかけてくれた。担任でもなく、2年間美術でお世話になっただけの恩師が、自分の名を呼んでくれただけで、熱いものが込み上げてきた。卒業以来、連絡もとっていなかった同級生から次々と電話が入り、エールを送ってくれた。母校の先輩方が有給休暇をとって、ボランティアスタッフとして現場に駆けつけてくれた。現役の生徒もエキストラで出演してくれた。何だか不思議な感覚だった。

人は故郷を裏切っても、故郷は人を裏切らないという。母校は、そんなメッセージをさり気なく僕に伝えてくれたのかも知れないと、今ではそう思う。



©「いずれの森か青き海」製作上映委員会

《 会費納入のお願い 》

同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお問い合わせ申し上げます。

○納入金額

終身会費 20,000円
毎年納入の場合 年会費 1,000円

○納入方法

①郵便振替 口座番号 00820-8-6367

三重県立四日市高校同窓会

※専用の振込用紙がありますのでご連絡下されば送付いたします。

また同窓会HPよりダウンロードも可能です。

②現金書留

会館迄ご送金下さい。

《お問い合わせは》

四日市高校同窓会館まで電話・メールにてご連絡下さい。

◆

男子の部
伊藤 八峯さん

（四高35年度卒）

◆

女子の部
渡辺 健司さん

（四高31年度卒）

◆

女子の部
須藤美智子さん

（四高25年度卒）

去る11月7日（木）、第5回となりました銀城親睦ゴルフ大会が71名の参加を得て四日市カンツリークラブにて開催されました。途中降雨にも見舞われたものの最後までリタイアする人もなく終了、その後表彰式が行われました。



ベスグロ・伊藤氏



男女優勝者と熊澤会長

第5回

四高銀城親睦ゴルフ大会

学園だより

仲間の大切さ

3年2組 荒木理沙



私は四日市高校で素晴らしい先生や友達に恵まれ、充実した3年間を過ごすことができました。そして、3年間を通じて仲間の大切さというものを学ぶことができました。

私は陸上部に所属していました。入部した当初は、陸上は個人競技だと思っていました。しかし、部活の仲間と共に練習に励んでいくうちに、陸上は団体競技であることに気がきました。練習ではつらい練習もあり、投げ出したくなることもありました。共に練習する仲間がいたおかげで、途中でくじけずに最後までやり遂げることができました。そして、大会のときでも部活の仲間が応援してくれたおかげで自分が持っている以上の力を発揮することができました。

また、勉強でも同じように仲間の大切さを感じました。一人で勉強をしていてやる気が起こらないときがしばしばありました。しかし、そんなときでも自習室に行けば、必死で勉強している仲間を見て、一生懸命勉強することができました。また、わからない問題があるときに丁寧に教えてくれる友達がいてくれたおかげで、もっと勉強を頑張ろうという気持ちも起こりました。

この3年間、さまざまな所で私を支えてくれた友達、先生、家族に感謝をしたいと思います。これから先もまた、たくさんの人と出会うことになるでしょう。そのときも四日市高校で学んだ「仲間の大切さ」を思い出し、新たな「仲間」との生活も大切にしていきたいと思っています。

インターハイに出場して

陸上競技部 中村朱里

私は去年の夏、400mハードルでインターハイに出場しました。そこで総合開会式にも三重県代表として参加させていただきました。総合開会式は、陸上競技が行われる大分銀行ドームで開催され、入場行進や皇太子さまの激励のお言葉を聞いたり、様々なパフォーマンスを見せていただきました。競技場に入りトラックを踏んだ時の感動は今でも鮮明に覚えています。本当に本当に憧れていた青いタータン。走りたいと願っていたこの舞台。その後の練習で実際に走ると、足に返ってくる反発が気持ち良く、楽しかったです。私をここまで支えてくれたのは、たくさんの応援でした。インターハイ出場が決まった東海大会の翌日、私の机の上にメッセージ入りのお菓子が山積みになっており、クラスの皆が祝福してくれたこと。激励の手紙やミサンガをもらったこと。陸上部の皆から一人一人のメッセージが書かれたスパイクの袋をもらったこと……。こんなにたくさんの人に応援してもらって、私は本当に幸せです。

そして当日。いつもより調子が上がっていたので、良い記録を出し、準決勝進出を狙っていたのですが、自分が決めていた歩数が合わず、その場で調整ができなかったため、失敗してしまいました。自分の技術不足、全国の厳しさを思い知りました。しかし、他の選手から自分に足りない多くのものを学びました。今回の悔しさをバネに、大学ではインカレに出場し、そこで結果を残せる選手になります。そのために、一から技術力を付け、あと6秒縮めることを目標に頑張ります。



会館だより

富中38回生の皆様より
寄付をいただきました。

編集後記

編集作業を終えようとしている今、冬季オリンピックの報が次々と。あどけなさの残る顔に輝くメダルや新しい王者の登場と並んで、古参選手の朗報も。新旧両の活躍は当に同窓会と同じ。そんなことを思い、ご協力くださった皆様への感謝と新たな出会いへの期待を感じております。

小林



小保方よしの
(四高48年度卒)

◆第10回関西四高会
代表幹事
増田 隆(四高46年度卒)
幹事
安田 京子(四高46年度卒)
栗栖 信之(四高48年度卒)
川端 芳江(四高48年度卒)
小保方よしの(四高48年度卒)



第10回 関西四高会

平成25年10月20日、大阪駅に近い弥生会館で関西四高会が開かれました。関西四高会とは関西近辺在住の旧富田中学・四日市高等学校・四日市北高等学校の先輩方と四日市高等学校出身者が2年に1度集まっている会です。今回で記念すべき第10回です。幹事学年の昭和46年度卒と48年度卒の5人で準備を進めてまいりました。

当日は52名の出席を頂きました。出席者の最年長、真弓威光様(四高19年度卒)のご挨拶から始まりました。お楽しみタイムでは横山由子様(四高25年度卒)の天津玉すだれ・榊田能里子様(四高31年度卒)の手品などが披露されました。榊田様のご主人は四高で教鞭をとられた先生で恩師との再会を果たされた方も喜びました。今回は遠くは川崎市からの参加もありました。三重県内からも多くの方の参加を頂きました。安藤巖様(四高27年度卒)による応援歌「希望の門」斉唱に続いて全員で母校の校歌と応援歌の大合唱でお開きとなりました。次回は2年後、平成27年秋の予定をしております。お元気で尚且つ知的でいらつしやる先輩方は、後輩の私たちの誇りです。このたびのご縁を頂けたことに感謝申し上げます。2年後にもまた、たくさんの方のご参加を心待ちにいたしております。

同窓生交歓



四高25年会

H24.11.29（四日市都ホテル）



四高30会

H25.10.17（伊勢神宮）



富中41回会

H25.6.3（四日市都ホテル）



四高第2回 富中46回

H25.9.28（四日市都ホテル）



通信

H25.6.2（北陸）



富中三八会

H25.9.20（四日市・たまゆら）



北海道富中・四高会

H25.5.21（札幌・すすきの）



四高38年度3年5組クラス会

H25.11.17～18（賢島・宝生苑）



卓球部OB会

H25.11.4（丸の内JPタワー・菜な）



星稜会（四高卓球部OB会）

H25.4.13（四日市・たまゆら）